

邇摩高校PTA広報

Y u r i n o k i



百合樹

第 2 7 号

平成 2 9 年 1 0 月 3 日
島根県立邇摩高等学校 P T A

百合樹 (ユリノキ)

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木。創立100周年の記念樹としても採用された。

PTA会長挨拶

郷原 寿夫



本年度、本校PTA会長を務めさせていただいております郷原と申します。

この一年、皆様のご協力をいただく中で、PTA活動を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、七月十四日、「中国・四国地区高等学校PTA連合会大会」に三島校長とともに、参加いたしましたので、その概要についてご報告させていただきます。

本年度の開催地は、海産物と海峡、そして幕末維新のまち、山口県下関市。うだるような暑さの中、「海峡メッセ下関」を会場に大会は開催されました。参加者とスタッフが入り乱れる中、会場に入ると、整然と並べられた無数の椅子。改めて参加規模の大きさに驚かされました。今大会のテーマは、「育て、生きるチカラ！PTAは子ども達の応援団」で、サブテーマは「今、変革の時。さらに一歩踏み出そう」。子ども達の「生きる力」を育む上でも、今後PTAの役割はこれまで以上に大事になる、との意味が込められていました。

開会行事に続いては、文部科学省の初等中等教育局財務課長の講演。「何で財務課長？」と、軽い疑問を抱くも、前任で社会教育に携わっておられたというお話を聞き、納得。現在、現役のPTA会員でもあるご自身の体験も含め、今後

予定される学習指導要領の改訂や大学入試改革についてのお話など、興味深い内容でした。

アトラクションで、下関の伝統芸能を堪能した後は、各PTAの研究発表。今回は、三人の発表者のうちの一人として島根県PTA連合会の会長である、矢上高校の大屋会長が「学校教育とPTA」をテーマに、「高校存続と魅力化」と題し、発表。山あいのまちにある矢上高校では、高校存続に向け、地域やPTAと一緒に進んで取り組んでいるということとを具体例も含め発表され、参加者は興味深く聞き入っていました。

他の発表もそれぞれ地域や学校の特性についての発表で、自分自身、大変勉強になるものでした。我が邇摩高校でも従来から取り組んでこられた「高校の魅力化」をさらに進めていく上でも、家庭と学校の連携が大変重要であり、まさにこれを具現化していくためにも、PTAの役割がますます重要になってくることを再認識する機会となりました。

「邇摩高校の魅力化」については、今後、PTAの中でも、しっかりと議論していく必要があると考えています。今後とも保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



PTA副会長挨拶

宮原 道徳



この度参加させて

いただきました全国高等学校PTA連合会静岡大会は静岡岡袋井市をメイン会場に、八月二十四日は基調講演・七つの分科会、二十五日は記念講演・分科会報告という内容で静岡県が進めておられる「有徳の人」づくりをメインテーマに、「未来のために行動する『一人』を育てよう」をサブテーマに開催されました。県教育振興基本計画にも記されたこの考えは、文字どおり将来のためにしっかりとした個人を育てなくてはならないというもので、開会から感化されるほどの熱い挨拶で始まりました。

基調講演「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」の講師小和田哲男先生は、NHK大河ドラマの時代考証も担っておられ、事例紹介は歴史好きの私には興味のあるものでした。戦国時代の教育は武士階級だけでは無く、子どもに読み書きをさせようという気持ちを持った人（親）が教えることの出来る人（僧侶）を街道等でお願いしお堂などでやってもらっていた記録もあるということでした。何時の世でも必要なのは「強い思い」だと思います。

また、戦国時代の名将の子どもを見抜く目という話から思ったことは、その子の素質なりを見抜き、育ててやるのが親や人生経験を積んだ大人の役目であり責任。見抜いて貰った子はラッキー、そ

うでない子はアンラッキーでは人は育たない。少々耳の痛い話であります。私も反省すべき点が多分にあります。

分科会ではそれぞれPTAの役割的な所をテーマ設定し話し合われました。分科会の報告としては幾らか私の偏聴もあるかと思いますが、テーマは異なっている。総じて親と子どもの関わりは親が活動に積極的に参加し子どもと共通の話題を持つことで会話が生まれ、この会話こそが重要であるということ。また、親の背中を子どもは見えて育つといった所へ繋がっていくのかと理解しました。

最後に、子育てに限らず人付き合いのヒントをいただく良い経験をさせていただいたことに感謝いたします。三年後には島根県での開催が予定されているとのことです。瀬摩高校PTAにおいても準備が必要となってきます。来年の大会へは出来るだけ沢山の皆さんの参加を検討されると良いと思います。以上、報告とさせていただきます。

◆全国高等学校PTA連合会静岡大会



PTA副会長 宮原さん 坂根さん

校長挨拶

三島 祐司



平素より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

四月に新入生九十七名と新着任教職員九名を迎え、「二人ひとりの心が通い合う島根県一の温かい学校にしよう。」と私が訴えかけてから、早くも半年が経過しました。この間、瀬摩高フェアや体育祭等の行事改善、文科省特別支援教育モデル事業の四年目となる研究、大田市内県立高等学校支援連携協議会や島根県高等学校魅力化事業等を活用した学校の魅力化推進など、継続あるいは新規事業も含め、様々な取組を行なってまいりました。また、石見銀山世界遺産登録十周年イベントとしての生徒による「銀山カフェ」の企画・運営、伝統行事「水上町花田植」への参加、そして生徒から学校に対する率直な意見を聞く場である「瀬摩高を考える会」で出た意見から実現した「天領さん」の正調踊りへの参加など、生徒の主体的な活動の中で瀬摩生徒にしか放つことのできない輝きを見せてくれました。その他、部活動や生徒会活動あるいは個人的な活動においても、様々な場面で一人ひとりの輝きを見せてくれました。校長として大変嬉しく感じるとともに、瀬摩高生の頼もしさを感じた半年でした。生徒諸君には本当に感謝しています。

「教育は人なり」と言われます。「どんなに時代が変化しても、子どもを豊かに育て能力を引き出すのは、教師という人間にかかっている。」というこの言葉の意味を我々教職員は常に自覚し、自ら魅力ある人間となるとともに、生徒一人ひとりを大切に育てる教職員集団を構築し、組織として機能させることが大切です。本校が目指す「生徒を主役にした教育活動をとおして、自己目標に向けて粘り強く挑戦する生徒、地域活性の一翼を担い地域社会に貢献する人材を育成するとともに、保護者や地域から信頼され支持される学校」の実現に向け、教職員と生徒が一丸となって邁進する所存です。今後のさらなるご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

一年生 保護者の声

PTA評議員 小玉 利栄
この春から、息子が瀬摩高校に通うことになりました。小学校の時から続けている大好きな野球を、新しい先輩方・仲間達と一緒にできて、とても嬉しそうに毎日通っています。

さすがに、体力的にきついようですが自分の決めた道なので、最後まで頑張っしてほしいです。

私は、残り少ない子育て&部活動追っかけの時間を楽しみながら、応援できる事はできるだけやりたいです。

これからの高校生活三年間は、今まで出会ってきた人との縁も大切にしながら、これから出会う人との縁も多く、強

く結べるように親子共々頑張ります。よろしくお願ひします。

PTA評議員 斎藤 治

今年の春から三男が瀬摩高校でお世話になる事になりました。併せて一番下の三女が中学校に入学しました。

子ども達が進学する度に、子どもの成長を嬉しく思うと同時に、色々な心配事も生まれてきます。でもそれも子どもを育てる一つの楽しみと思えるようになってきました。

高校では中学と違い、進路のことも考えていかなければなりません。充実した学校生活を送ってほしいというのが親としての一番の願いですが、三年間の学校生活の中で社会人として大切なことも少しずつ身に付け、将来のことも考えていってほしいと思います。

PTA評議員 田中 和弘

今年、長男の卒業と二男の入学でした。入れ替わりで瀬摩高校にお世話になります。目立つタイプの長男に対して、ちよつと控えめで努力タイプの二男です。これからどんな高校生活を送るのか、不安でもあり楽しみでもあります。将来の進路については、自分の考えを持ち決めている様です。これからの高校生活の中でいろいろ経験し変わっていくかもしれないが、自分の進むべき段階をしっかりと昇って行ってほしいと思います。三年間は、あつという間です。自分のやるべきこと、夢に向かって頑張っしてほしいです。

教職員の声

「諦めない・挑む」

教務部長 見越 正勝

母は今年八十二歳。八年前に人工関節の手術を受けた。八月の検診で、痛みを除き、歩けるようにするには再手術が必要と診断された。先天性の脱臼を七十余年だましました使ってきた骨盤は、理科模型のそれとは著しく異なり変形している。

手術をしても歩行可能となる保証はできない。急激に痛みが増すことはないだろうし高齢なので強くは勧めないがどうする、と問われる。「先生、手術して。また歩けるようになりたい」即答だった。「どうせ」という諦めは少しもなかった。

北海道芦別市に植松電機という会社がある。社長の植松努さんは世の中から「どうせ無理」をなくそうと呼びかける気持ちをつくじき、人の力を奪う言葉だと言う。

八十を過ぎた高齢者でさえ、諦めない。まして若い者はなおさら、と思いたい。

「未来の自分を探して」

進路指導部長 松田直子

生徒と過ごす中、格段の成長を感じる時の一つが進路決定時です。成長の結果としての進路決定ではありませんが、進路決定の過程そのものが、成長を強く後押しすると思えます。

進路の決定は、単なる出口の決定では

なく、「生き方」を決め、そこへ繋がる道を確認することです。就職・進学を問わず、ほとんどの生徒が、「生き方」への覚悟を面接で問われます。自らの「生き方」を責任もって語るため、この高校時代に心血を注いだことを想起し、自己の適性や能力を客観的に見つめる。そして、十八歳でこれからの「生き方」を宣言する。現在の自分を整理し、未来の自分を探す過程です。徹底的に自分と向き合う、決して簡単ではないその苦しい準備の過程にこそ、大人になるための成長の節目があります。

「ふるさと島根を守りたい」「最先端技術を世の中に発信し、社会の進歩に貢献したい」・・・未来を語る生徒たちの輝く瞳にエネルギーをもらいながら、その輝きが一層増すよう支援していきたいと思います。

「十年後の姿」

一年学年主任 小林秀光

気がつくことあつという間に半年が過ぎました。四月当初の一年生はみんな緊張気味でしたが、夏休みが終わり体育祭も終えた今、どこか自信を持った生き生きとした表情に変わってきたように感じています。

一年生はこれから系列選択の時期を迎え、いよいよ自分の夢に向かって具体的に動き出すこととなります。特に「産業社会と人間」の授業の中では、今までの自分をしっかりと見つめ直した上で、進路学習や各系列の体験学習などを行

い、様々な活動を通じて自分に適した系列を決めていきます。生徒には、目の前のことだけではなく、十年後の自分の姿をしつかりとイメージするように話をしています。十年後の自分のために、今、何をすべきか、しっかりと考えて行動し、さらに自信に満ちた高校生活を送ってください。

保護者の皆様には、お子様と一緒に将来についてご家庭で話をしていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

「期待」

二年学年主任 坂井 智子

九月十六日から始まる就職試験に向け、三年生が忙しそうにしています。試験本番を目前に控えたこの時期の、真剣に面接準備等に励む生徒の姿を私は毎年楽しみにしています。授業等を担当し、何となくわかっていたつもりを生徒の意外な一面に、感動を覚えることさえあります。保護者の皆様に一生懸命に頑張る姿をお見せできないのを残念に思います。

さて、先日の学年集会で二年生には高校生活がすでに折返しに入っていること、進路選択に関する諸行事の三月までの展開予定を伝え、「自分の武器を作っていく」と呼びかけました。進路希望に向かって戦い抜くための「武器」として、二年生ひとり一人が何を選び、どのような頑張りをこれから見せてくれるのか、どんなにワクワクさせてくれるのか、楽しみにしています。

体育祭分団長コメント

「体育祭を振り返って」

青軍 三年三組 宇谷 空

こんにちは。青軍分団長の宇谷空です。団長は男がやるものだと思います。方が多いと思いますが、私は自ら立候補し、団長を務めさせていただきました。

最初は不安が大きく、どうしようかと悩んでばかりで前へ進むことができませんでした。ですが、クラスのみんなの支えのおかげで少しずつ青軍らしさが創れました。それは、応援、デコ、衣装をみんなで助け合って創ったからです。そして、三年生が、一・二年生を引っ張っていく、みんな暑い中練習についてきてくれました。おかげで競技、デコ、衣装一位、そして総合優勝という素晴らしい結果を残すことができ、とても嬉しい気持ちでいっぱいでした。最初から最後まで笑顔で体育祭を締めくくることができて良かったです。

みんなにとってどんな青軍の分団長になったかはわかりませんが、私は本当に青軍の分団長で良かったなと思います。人生最後の体育祭、とてもとても楽しかったです。青軍のみんな、こんな私についてきてくれて本当にありがとう。ございました！最高の思い出です♡

「みんなありがとう」

三年二組 影山 力也

私は赤軍分団長の影山です。今年の体育祭はジャスティス〜正義を貫き、勝利

を掴めろというテーマのもと始まりました。私たち赤軍のテーマは愛羅武勇ワンダーランドへようこそです。意味は男女の仲が良く、ワンダーランド、自分たちらしくという意味が込められています。練習の時は一・二年にどう教えたらいいのか分からなく、三年女子との意見も合わなく、ケンカをする時もあったけれど話し合いをしたらみんなが協力してくれてなんとか応援も完成することができました。このクラスで、この分団で応援合戦や競技をすることができて良かったです。一・二年生も協力してくれて、こんな分団長についてきてくれて本当に感謝しています。結果は良くはなかったけれど、とても良い思い出になりました。一・二年生は夏休みの時から準備をしっかりしておくことがなく、余裕をもって準備をすることができるので計画を立てて練習すると良いと思います。このメンバーで体育祭をすることは二度と無いのでたくさん楽しんでほしいです。

最後に一言、みんなありがとう。

「最後の体育祭を振り返って」

紫軍 三年一組 清水 翔

三年生にとっては高校生活だけではなくこれからの人生において最後の体育祭だったと思います。僕たち紫軍は、英紫颯爽と目指せ二連覇とというテーマを決め一組全員で頑張りました。夏休みから準備をし、みんなが協力しながら頑張った結果、本当に良い体育祭にな

ったと思います。応援練習の時には二年三組と一年一組のみんなが本当によく頑張ってくれました。紫軍は先輩、後輩関係なく本当に仲が良く練習中から盛り上がり、一番楽しい組だったと思います。その結果が応援一位という最高の結果につながったと思います。まだまだこの組でやりたかったけれど一・二年生のおかげで三年生にとって最高の体育祭になりました。

三年一組のみんなもたくさん協力してくれて本当にありがとうございます。

◆入学式の様子



校長式辞



PTA 会長祝辞



宣誓
横田 瑠衣さん



1年1組 担任 山岡 進 先生
副担任 山田 あかね 先生



1年2組 担任 渡辺 大介 先生
副担任 松本 博 先生



1年3組 担任 長谷川 みつ江 先生
副担任 山岸 弘一郎 先生

